

会 議 録

会議名		平成28年度第4回図書館協議会	
事務局		図書館	
開催日時		平成29年1月23日（月）午後2時から午後4時まで	
開催場所		図書館本館 集会室	
出席者	委員	田中 幸夫、藤森 洋子、鴨下 万亀子、石田 静子、内田 美帆、船崎 尚、吉田 和夫、坂野 勝一、中里 成子	
	欠席者	大友 敬三	
	事務局	菊池館長、西村庶務係長、井上奉仕主任、山下主事	
傍聴者の可否		可	傍聴者数
			1
傍聴不可・一部不可の場合はその理由			
会議次第	<p>1 議 題</p> <p>(1) 「小金井市の図書館の在り方」について（諮問）</p> <p>(2) 小金井市立図書館についてのアンケート</p> <p>2 報告事項</p> <p>(1) 平成28年度第4回小金井市議会定例会報告</p> <p>3 その他</p> <p>(1) 多摩地域公立図書館大会について</p> <p>(2) 視察について</p> <p>4 配布資料</p> <p>(1) 小金井市の図書館の在り方について（答申）素案（事前送付）</p> <p>(2) 小金井市立図書館についてのアンケート（事前送付）</p> <p>(3) 小金井市の図書館サービス網構想の歴史 ……資料1</p> <p>(4) 図書館に必要な機能について ……資料2</p> <p>(5) 近隣自治体の状況 ……資料3</p> <p>(6) 小金井市の図書館</p> <p>(7) 平成28年度 東京都多摩地域公立図書館大会</p> <p>(8) 図書館だより（第37号、38号）</p> <p>(9) 月刊こうみんかん（No.463、464、465）</p>		

平成28年度第4回 小金井市図書館協議会

平成29年1月23日

【菊池館長】 皆さん、こんにちは。本日は、お忙しいところ、平成28年度第4回の図書館協議会にご出席いただきましてありがとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

1月は、教育委員会の一だ行事である成人式が無事に終わったところです。教育委員会に所属しているおかげで、新年早々に若い方々のパワーもいただいて、元気になったところでございます。また1年、頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

本日ですけれども、大友委員から欠席のご連絡をいただいております。また、石田委員から30分程度遅れるとのご連絡がありましたので、最初にご報告させていただきます。

本日の事務局側ですが、奉仕係長が不在ですので、主任の井上が出席させていただいております。

【井上奉仕主任】 初めまして。昨年4月より図書館に配属になりました井上と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

【菊池館長】 それでは、まず、資料の確認からさせていただきます。

【西村庶務係長】 お手元の資料を確認させていただきます。(資料説明)

【菊池館長】 それでは、田中会長、会議開催につきまして、よろしくお願いいたします。

【田中会長】 それでは、平成28年度第4回の図書館協議会を開会いたします。本年度もよろしくお願いいたします。

本日の協議は、この次第によって行いますけれども、議題1の前に、報告事項から始めさせていただきますと思いますけれども、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【田中会長】 では、報告事項からよろしくお願いいたします。(1)の平成28年第4回小金井市議会定例会報告について、事務局から報告をお願いいたします。

【菊池館長】 それでは、早速、報告事項から始めさせていただきます。

平成28年第4回定例会が12月2日から22日まで開かれました。図書館に関する部分は今回少なかったのですが、ご報告させていただきます。

まず、一般質問です。片山議員から、文書の保存年限についてということでご質問がございました。具体的には、市民が参画した政策決定の過程や議事録、資料はどのような扱いかなど、本などの図書というよりは、公文書の関係のご質問でしたので、図書館ではなくて、他部局が答弁いたしました。ただ、図書館には関連で、地域資料の選書基準の資料要求がございましたので、そちらを提出いたしました。それに関しては、特にご質問はございませんでした。一般質問は以上です。

厚生文教委員会は、開会中と閉会中の1月17日にも開催されましたが、図書館について答弁したものはございませんでした。

加えまして、定例会中の12月20日に市長報告がございました。市ホームページからご覧いただけますので、お読みになった方もいるかと思います。新庁舎及び新福祉会館の建設に向けた方針についてということで、これは昨年10月4日の市長報告、庁舎建設等に関する今後の方針についてという市長報告がございました。いわゆる庁舎建設等についてはゼロベースで見直すといった報告でした。その後の方針として市長が示されたものです。

方針として4つ掲げられてございますので、その部分だけを読ませさせていただきます。

「新庁舎及び新福祉会館の建設に向けた方針について述べさせていただきます。1、清掃関連施設の再整備について、慎重かつ丁寧に進める。2、新庁舎及び新福祉会館は、平成33年度竣工を目標とする。3、第二庁舎賃貸借契約は、新庁舎竣工後、適切な時期までとする。4、関連予算及びさらなる検討の成果等については、平成29年第1回定例会にて示すこととする。この4点を新たな方針と位置づけ、今後も着実な歩みを進めていきたいと考えております。」ということがこの報告書に載っております。

平成29年第1回定例会は、今年3月26日に市議会議員選挙がございます関係で早まって、今月26日から開催されます。市議会の報告は以上でございます。

**【田中会長】** ありがとうございます。

何かご質問等ございますでしょうか。発言をお願いいたします。

**【鴨下委員】** 市長報告の中で、新庁舎と新福祉会館の建設については出されていますが、そのほか、6つの施設について白紙になりましたけれども、図書館についてはまるっきりノーコメントなのではないでしょうか。何かあるのでしょうか。

【菊池館長】 新庁舎と新福祉会館以外のことについては、特にコメントがございました。

【中里委員】 そうしますと、依然、ゼロベースのままにいるということですか、今の段階は。

【菊池館長】 6施設が4施設2機能になって、それをゼロベースに戻されて、今回、庁舎と福祉会館は建てていくという方針になりましたので、図書館はそういう意味では、ゼロに戻したところで止まっているままです。

【鴨下委員】 それでは、今回、図書館の在り方についての答申を私たちは受けましたけれども、それは建設する場所についても附則みたいことで入れたほうがいいのでしょうか。何年度までに新築するとか、改築するとか、こういう形で市全体の図書館を考えていきたいとか、そういうハードの面についても答申に盛り込む必要があるのでしょうか。

【菊池館長】 過去いただいた答申を見ますと、施設配置、例えば駅、線路を中心にして北側に何館、南側に何館、かなり明確なものが打ち出されてきています。ただ、それを少しずつ修正しながら現在に至っていますけれども、なかなか実現が難しいところだと思います。そういう意味では、ここにこういうものを作るという、確固たる絶対像を出すことはなかなか難しいかと思っています。ただ、やはり何もなくなると、これから図書館を考えていく際に難しいと思いますので、今の小金井市に合った中で、こんな方策もあるのではないかとこのところでお示しいただければと思います。

【田中会長】 議会報告について、よろしいでしょうか。では、次に移ります。

次第に戻りまして、議題に入りたいと思います。(1)「小金井市の図書館の在り方」について(諮問)ということで、事務局から説明等をお願いいたします。

【菊池館長】 前回いただきました宿題の1つに、協議を進める上でのたたき台のご要望がございました。それを作ったものが、事前配付いたしました小金井市の図書館の在り方について(答申)、真ん中辺りに素案と書かれているものがこちらになります。

これから中をお読みしながらご説明したいと思いますが、もう一つ宿題がありましたアンケートを、この後議論していきたいと思っておりますので、そこに時間をかけたいと思っておりますので、申しわけありませんが、この在り方についての本格的な質疑や協議については、次回以降ということにさせていただければ非常に助かるのですが、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【菊池館長】 ありがとうございます。では、説明に入りたいと思います。

前回お配りしたスケジュール案には、諮問の主な事項である機能や施設規模、運営形態について、それぞれ説明していけたらと思いお出ししたところですが、図書館の機能や規模だけ抜き出して案をお出ししても、全体像が見えづらくて、逆に皆様が考えづらいのではないかとこのところがありまして、在り方全体として今回、たたき台をお出ししたところでございます。

諮問でいただく形で作りましたので、表紙には図書館協議会名が入っており、裏面には「はじめに」ということで、協議会委員さんからのお言葉の部分が載っております。

次のページ、目次から在り方が始まります。目次はこのような章立てで考えました。第1章が位置づけ、第2章が小金井市立図書館の現状、第3章が市民アンケート、第4章が図書館の在り方についてということで、このようなくくりと考えるお出ししております。

第3章、第4章については、後ほど中を見ていただければわかりますが、まだ市民アンケートの部分もこれからですし、最後の図書館の在り方（総括）の部分も全くこれからですので、この辺はまだ案がお示ししていない状態となっております。

では、もう一枚めくっていただきまして、中に入ります。位置づけというところです。ここは大事なところなので、ここだけを読ませていただきたいと思います。

## 第1章 位置づけ

### 1 策定にいたる背景

小金井市（以下「本市」という。）では、昭和39年に図書館が誕生して以降、昭和50年に開館した本館を中心として分室や図書館、移動図書館により図書館ネットワークを構築して、図書館サービスに努めてきました（移動図書館は平成27年度末で運行終了）。

こうした中、本市の図書館サービスの指針となる「小金井市立図書館運営方針」（以下「運営方針」という。）については、平成25年に全面改訂を行い、「いつでも」「どこでも」「だれでも」「なんでも」利用できるサービスを提供することを目的とした、時代に沿った内容に改めました。その一方で、本市の図書館全体としての施設の考え方については、運営方針とは別に時間をかけて検討することとしましたが、近年、本館の施設・設備の老朽化への対応や充実を求める利用者の声に加え、今後の図書館の運営形態についての考え方を示すように求める声が高くなっています。また、本市の最上位計画である「第4次小金井市基本構想・後期基本計画（平成28年度～平成32年度）」には「市民ニーズに沿った図書館の在り方の検討」が取組として掲げられているところです。

このような本市の図書館の現状や、図書館を取り巻く環境の変化、社会経済情勢の変化などに対応し、より良い市民サービスを提供していくためには、本市の図書館の将来ビジョンを持つことが必要です。

## 2 位置づけ

### (1) 目的

「小金井市の図書館の在り方について」(以下「本書」という。)は、図書館における市民サービスの向上を目指し、運営方針を推進できるよう、本市の図書館の施設や機能及び運営形態についての考え方を示すことを目的とします。

### (2) 位置づけ

本書は、小金井市教育委員会の策定する生涯学習推進計画のもとに、将来、図書館において運営方針と一本化し、より具体的な計画を策定する際の指針とします。

というところで一度切らせていただいております。

この在り方を作るに至った背景や在り方の位置づけ、ポジションといいますものを1ページの下に図で示させていただきました。最初に皆様方にもお話しした際には、図書館計画をつくっていききたいというお話をさせていただいたかと思えます。しかしその後、市の動きが若干変わったところもありまして、今の段階で計画をつくっていくことが難しくなったということもありますので、将来的に一本化したものをつくりたいと。そのための指針ということで作らせていただきました。

ご質問はまた後でまとめてということで、次、2ページ目に移らせていただきます。

ここは今の図書館の状況ということで、(1)は図書館の立地状況について地図で示させていただきます。点々と書かれている円は、各施設を中心として半径1キロメートルで引いてあります。これでいきますと、市内をほぼカバーできているというところがございます。そして、長年、市内を分断しています中央線によって図書館の配置が考えられてきたこともございますが、こちらが平成22年に高架化いたしましたので、若干、人の動きも変わってきたところがあるのではないかとということが書かれております。

次のページに移っていただきまして、3ページ目と4ページ目の上は、(2)としまして、図書館本館と各分室の状況を書いてございます。面積や開館時間、蔵書冊数などを一覧にしたもので、①が本館と別館、②が緑分室と西之台会館、直営館を出しております。③が東分室と貫井北分室ということで、委託館の詳録になります。

続きまして、2の図書館の課題に入りたいと思います。

(1) から (5) まで、全部で 5 つ挙げてございます。(1) は図書館施設の老朽化、(2) が各分室及び西之台図書室の状況、(3) が図書館の機能と施設規模の限界。めくっていただいて、5 ページ目が図書館ネットワーク、(5) として、図書館の運営形態というように挙げてございます。

課題としてはまだまだ沢山あるのではないかというお話がこの後、協議の中で出てくるかもしれませんが、全てここに挙げさせていただいております。

図書館サービスとしての課題がここには入ってきていません。例えば、児童サービスをどうするかなど、そういった面は抜けています。あくまでも機能や施設の規模、運営形態について絞って載せてあります。

第 3 章はこれからお話しする市民アンケートについてなので、今は省きます。

6 ページ目から第 4 章、図書館の在り方になってきまして、考えているは 1、2、3 として、1 で図書館に必要な機能についてということ。今はまだ空欄ですけども、2 で図書館に必要な施設規模についてということ。そして、7 ページ目の 3 で本市の図書館の運営形態についてということで、報告を最後の総括という形を作らせていただきました。なので、後半に行くにつれて空いているところが随分増えてくるのですが、今後埋まってくる箇所であります。

お手元にお配りしました細かくて申しわけない資料、資料 1、2、3 と書かれたものがあります。資料 1 からご説明させていただきます。

この 3 つですけども、本日どうこうするというものではなく、今後、協議を進めていく中で、様々な資料のご要望があるかと思われませんが、まず手始めとして事務局で作った資料になります。

資料 1 が、小金井市の図書館サービス網構想の歴史と書いてあるものがついてございます。これは何かと申しますと、小金井の図書館は 6 館構想とかねてから言われてきております。6 館構想とは一体何かということをご過去から言われておりますので、私たちが勉強するつもりで一連をまとめているものがこちらになります。上から時系列になっておりまして、昭和 47 年に社会教育委員の会議でいただいた答申、本市における図書館活動はいかにあるべきかというところから始まっています。右に行っていただくと、答申の中の概要や備考の部分を一緒に書いてありますので、お読みいただければと思います。一番右端のところは、その当時にあった小金井市の図書館の施設が書かれてあります。昭和 47 年には、ここの本館がまだ建っていないで、本町図書室、貫井南図書室、青少年センター図

書室というものがございまして、これらは現在すべて廃室となっています。そして平成26年にいただいた答申が最後になっています。図書館の在り方を考えることの中で必要な部分だけ抜粋してありますので、いただいた答申の内容が全て載っているわけではないということをご了解ください。

真ん中より少し上のところに薄く色がついている部分があるかと思います。平成1年のところです。この部分は答申ではなくて、以前の改訂する前のものの中に施設計画というものが載っていました。ここに6館構想を踏まえて、図書館ネットワーク網でサービスに当たってきたと書かれておりまして、6館構想の推進及び基本サービスの充実を図るとし、目標値として貫井北地域に分室規模、中央線北側に本館規模を予定するというようなことが書かれてありましたので、そこも併せて載せてある資料になります。こちらが資料1です。

続きまして、資料2に入りたいと思います。こちらは、機能という言い方をしていますが、今後も図書館にどのようなものが望まれて必要になるのかということ、これから考えていく中での参考になればと思いお作りしたものです。両面になっていて、表面が利用者用設備というものが一番下に書いてあります。その隣に現有の設備というものが上にありまして、下が必要と思われる設備となります。現有の設備というものは本館を中心に考えておりますので、その次に機能が来て、その次の現状というところで本館のことが書かれておりまして、面積規模も本館のものが入っております。その下の必要と思われる設備につきましては、職員側が様々な図書館を見た中で、こういった機能や設備が必要となっていくのではないかとということと、利用者の方から個別にこういったものが欲しいとか、こういったものを作ってほしいと言われたものを積んだものがここに出されてきています。

右の4,000、3,000、2,000というのは、以前どこかでご覧になったかと思っ  
ている方もいるかもしれませんが、5月の図書館協議会のときに、蛇の目跡地にどのような規模の図書館がいいか伺った際にこちらからお出しした資料で、4,000平米だったらこのぐらいのものが入ります、3,000だったらこのぐらいのものが考えられますというようにお出ししたものを、そのままこちらに載せたものになります。

裏面は職員用の事務室や作業室、こういったものも施設を考える上では必要になるということで参考に載せてみました。こちらが資料2になります。

資料3ですけれども、近隣自治体の状況（2015年度）というものが最初に書いてあ



る面が表になりますが、これは東京都が毎年調査をしております公立図書館調査というものがあまして、そこから抜粋したものです。小金井市近隣の図書館プラス11市、人口や面積が類似と言われている市として、東久留米市と昭島市を載せたものになります。データを持ってきてただけですので、本当はもっと膨大なデータがあるのですが、こちらに限ってA4におさまる範囲で記載しました。

裏面は、その数字を使って、若干わかりやすいようにグラフにしてみた結果になります。今後検討する中で役に立っていけるのではないかと思いましたが、こういう数字も欲しいというものがありましたら、事務局でご用意できるものがあれば、ご用意していきたいと思っております。よろしく願いいたします。

また、大変遅くなりましたが、平成27年度版の小金井市の図書館ができあがりました。来年度はもう少し早くお出ししたいと思っております。こちらは27年度の貸出冊数等の統計類をまとめたものになりますので、こちらも確認していただきたいと思っております。

とりあえず駆け足で説明したかたちになりましたが、よろしいでしょうか。

**【田中会長】** 膨大な資料で目がちかちかする。答申についての細かな議論は次回ということで、今回は資料や骨組みを出していただいたのですが、本日の時点で、どうしてもこの辺を確かめていきたいとか、そういう質問等がありましたらお願いいたします。

**【坂野委員】** この在り方を書く上で、冒頭にも書いてありますけれども、「小金井市立図書館運営方針」がスタートポイントになっていると思うのですが、それを読みますと、幾つか設備的に拡充したりですとか、対応をとりたいという記述がありますので、それらの進捗状況、あるいは達成されていない場合には今後どうするのかということはずいぶん書きたいと思っております。

挙げだしたら切りがないのですが、1例だけ挙げますと、「高齢者の方が図書館にもっと来やすいように公共の交通機関の確保をする」という方針というのは、その当時随分考えられた論点でしょうから、まだ解決されていない理由を本書に書くだけでもかなり充実したものになると思っておりますので、それはぜひやっていただきたいと思っております。何か全くないところから本書を作るよりも、この方針の中で示された事項の状況に対応させて、さらに議論を進めていくという方法をとりたいと思っております。

それから、統計数字が何かあれば集計しますということでしたが、資料3の中に来館者数というのがあります。小金井市立図書館を見ますと、11万4,041人となっています。これは何の数字なのか、本当に来館した人数なのか、ということです。

今、図書館というのは今後高齢化が進んでいくと、雑誌を見に来るだけで借りないで帰っていく人が相当数います。私も去年150回ぐらい図書館に行き、そのうち8割が公立図書館なのですが、高齢者の方々が朝早くから夜遅くまで、朝9時過ぎから夜7時、8時まで、いらっしやって雑誌を読んでいます。そういう利用者は本を借りないでしょうから。

来館者数のカウントから外してしまうと、とんでもない勘違いしてしまう可能性があります。可能であれば、出入口を通った人数を何とか推計し、このうち実際借りた人数が何割程度なのかかわかると助かります。もしどこかの図書館の統計があるというのであれば、それを示していただければ今後の助けになりますので、あればお教えてください。以上2点です。

**【菊池館長】** 後の質問からお答えさせていただきます。

確かに図書館に見える方の100%が借りるわけではないので、貸し出した人数が来館者数とイコールにならないのですが、今の段階では集計するのが難しいです。最近ブックディテクションというシステムを導入しているところは、来館・退館者数をカウントできるシステムがあるところがあります。

それから、1点目のご質問ですけれども、図書館評価の部分に入ってくるかということが少し頭にあります。目標を立てて、それがどのように実行され、どこが実行できなかったのか評価をしていくということも、実は図書館法で求められているところなのです。ただ、まだ小金井はそこまでできていないので、今後やっていかなければいけない部分であると実感しております。

**【坂野委員】** ありがとうございます。

**【田中会長】** そのほか何かございますでしょうか。

**【菊池館長】** 今後の進め方ですけれども、幾つかやり方があると思います。今回たたき台をお出ししましたので、こちらで揉んでいただいて内容を詰めていくという方向もあるかと思えますし、過去には、別途小委員会のようなものを数人のメンバーで構成し、そこで揉んでいただいて、またここに返すという方法をとったことがあるのですが、メンバーの皆さんお忙しいので、なかなか難しいと感じているところです。

なので、もしよろしければと思っているのが、こちらでご意見いただいたことに加えて、まだ空欄の部分がありますので、それをまた持ち帰って、次回までに事務局でたたき台の修正版をまたお作りして、こちらにお返しするということのキャッチボールで作っていかれたらいかがかと思っているのですが、そのあたりはいかがでしょうか。

【田中会長】 今、図書館長からこのようなご提案がありましたけれども、何かご意見等ありますか。

【中里委員】 その前に、まずこれをいつの段階で答申をお出ししたらよいか。タイムスケジュール的に、今はゼロベースになったということですから。確か前々回ともかく急いで案を欲しい、協議会の意向を教えてほしいという形とは大分違ってまいりましたので、ある意味時間的な余裕ができましたよね。けれども、かなり漠としたあらゆる問題について、いわゆる意見を出し合ってまとめていくということですから、協議会の回数もありますし、タイムスケジュールが決まっていないと。その1つのことにかける時間というものもおのずと決まってくるのかなという気がします。できればそこを決めておいてから始めるほうがやりやすいと思います。答えを出さなければならないのであれば。

ですが、例えば次期に申し送ってもよいということであれば、私たちはいないわけですから、「14期はここまで徹底的に議論しました。その結果を書面で申し送り後は次期委員の検討をよろしくお願いします。」という形もとれなくはないです。図書館協議会としての意見ですから。ある意味そのほうが多数の意見を反映することもできることになります。そこを私は決めておいたほうがやりやすいのかなという気がするのですが、皆様いかがお考えでしょうか。

【田中会長】 ゴールを決めておいて、そこに向かってどのようにこの協議会が行くかという論点。

【菊池館長】 前回スケジュール案をお示ししまして、とりあえず本日1回目をやってみた様子でスケジュールを見ていこうという話もあったと思います。おしまいといいますか、どこまでいただきたいということは、私としては平成29年度中にはいただきたい。

【田中会長】 29年度ということは来年の3月。

【吉田委員】 図書館の在り方についてゼロベースと伺っておりますので、そうするとゼロベースの中でのものしかできないのですよね、当面は。ですから、おそらく小金井市の図書館のあり方というのは、今後もう少し具体的に固まってきてから次の段階に入ることだと思う。だからあり方について幾つか段階があるのだろうと思います。ですから、我々のできる部分は、我々のペースの中でどこまでのものができるかというプランみたいなものを作って、それを出していくしかない。基本的には施設のことについては、全く今わからない状態ですので、一般的な小金井市の図書館のあり方はどのようにすればいいかという話と、そのためには何が必要なのかというあたりが答申のベースにあるのかと

思うのですが、いかがでしょうか。

【菊池館長】 今、吉田委員からお話がありましたような形になるのかと私も思っています。

先ほどの素案に別記であり方の立ち位置のようなものが書かれてありました。今の段階では作って運営方針と一緒にしていきたいという思いもありますので、このように進めていく予定ではありますけれども、上位計画でどのような流れになってくるかありますので、あり方といっても、これしかないというものを出すのは難しいと思います。なので、あり方とは言いながら指針に近いものになっているのかと思います。

【坂野委員】 今、吉田さんのお話を聞きまして思い出したのですが、図書館として協議するのもいいかもしれませんが、それ以前に小金井市の「公共施設等総合管理計画案」が去年の11月に出されています。先ほどの市長報告の後なのですが、それを読んでいますと、やはり図書館の今後の整備に関するものも大分書いてありますので、これがどのように具体的に影響してくるかを、斟酌する必要があるでしょう。

2例だけ挙げます。その計画案の3ページには、「これからの公共施設の全体の総量を抑制していくことを基本とします」から、もし先ほどのように図書館面積を現状から倍増して4,000平米にすると言うのであれば、どこか他の施設を削るとというのが市の方針ですので、それには難しい制約があることがわかります。

それから、その計画案の32ページを見ると、建物の建設計画がある程度数字の表で書いてありまして、市庁舎の建設を優先するのであれば、新図書館は早くて平成37年、38年、あるいは平成40年、41年に建設されるような計画になっています。ですから、これも案ですからその後変わってくると思いますけれども、要するに10年以上遅れるかもしれないという数字として載っているわけです。つまり今の委員世代じゃなくて次の委員世代に議論してもらわないといけないという状況だろうと思います。このように計画案との関連を示していただけると、我々としてはイメージが湧きます。

図書館長におかれては、この公共施設等総合管理計画をフォローされて、図書館に関係あるものを少しでも情報として与えていただければなと思います。

【菊池館長】 今の坂野委員の公共施設等総合管理計画ですけれども、パブコメが終わったところで、今年度中に策定という計画になっているので、もう少しででき上がるころであると思っています。おっしゃるとおり、公共施設の図書館施設という、単独ではなくて、市全体として施設を見ていかななくてはいけない時代になってきたということなので

すが、作るものは作っていかねばいけないところでもあると思いますし、施設が建ったら老朽化対策もしなくてはならないので、そのバランスが難しいとは思いますが、今後もその計画はでき上がっていきますので、その辺の情報もこちらにはきちんとお話ししたいと思っております。

【田中会長】 最初答申をお出しくださいと言ったときに比べると大分トーンダウンしてきて、行くかと思ったらゼロまで戻って、何か今は後ろまで下がってないではないですけども、ある形を示しておかないと。また実際に何か起こったときには何もないではないかということになることを懸念しているところでもありますので、指針や答申とでも言うべき、あり方がある程度示したいと思います。

そのやり方については、図書館長からご提案ありましたけれども、今ここで出たような話をまとめていただいて、またこちらに返していただいて、また揉んで返すという、そういうやり方で持っていきたいと思っておりますけれども、皆さんいかがですか。資料も向こうが圧倒的に沢山持っているだろうし、坂野委員が言われたような「こういう資料も提示しながらこのようにしてほしい」ということであれば、ワーキンググループを作ってもなかなか進まない気もしますので、その方向で参りたいと思います。よろしいでしょうか。

【鴨下委員】 前回お休みして申しわけありませんでしたが、前回の資料の中にスケジュールが出ていましたけれども、昨日、立川の図書館を見に行ってきたのですが、やはりあまり新しくはないですけど、ここよりは新しく、それなりに施設も整っています。今度国分寺に都立の図書館ができますよね。私たちの勉強ですけれども、その図書館の見学をする計画は入れたほうがいいのかと思うのですが、いかがでしょうか。

それともう1つは、本日アンケートを考えてすぐに実施するような計画になっているのですよね。もう少し余裕を持ったほうがいいのかと。アンケートは意外と重要でして、その結果というのは今後非常に作用してくるので、どういうアンケートを作るかというのは、やはり念入りに考えたほうが良いと思います。その2点、検討お願いいたします。

【田中会長】 本日これからその話は出ますけれども。

【船崎委員】 様々な状況を理解してきましたが、図書館や施設については、総量があり、それらを大きくするかしないのか様々な意見があるのですが、私は実際に経験してきたので、図書館に関しては絶対税金の無駄遣いということはないと思うのです。ほとんどないと思います。だからなるべく、一定の制限がない限り、機能や満足度を保つのは難

しいと思いますので、例えばここに出ている望ましい基準と、任務と目標の2種類があるのですが、基準はかなり高めの設定で、望ましいわけですから。ですが、こちらの任務と目標ぐらいは、どんなに財政が厳しいとは言っても、ぜひともあまり低くせず、やはりこれだけないと市民の方に満足いただける施設にならないということも少し考えていただければ。何か今オリンピックで一律安くするように進んでいますが、図書館の場合は逆だと思うのです。ですから、市の財政状況を勘案するのは当然ですけれども、そんなに要らないということやってしまうと私はまずいのではないかと感じています。せめてこの基本資料の任務と目標ぐらいは譲れないというぐらいにやってほしいと私は思います。

【菊池館長】 なかなか最後の総括が難しくなるかと思うのです。今まで協議会の方々やられた諮問ですと、もう少しピンポイントなものだったので、比較的考えやすいといえますか議論もしやすかったと思うのですが、今回漠然としつつ制約はあります。かといって理想像だけに走るわけにはいかず、現実味があるところ。かといってあまり現実的過ぎると如何なものかというところもありますので、非常に難しくなるかと思いますが、そこは事務局も全力を尽くしますのでよろしくお願いしたいと思います。

あと、鴨下委員からありました視察の件ですけれども、この後にその他のところでお話しさせていただいてもよろしいでしょうか。

【鴨下委員】 はい。

【菊池館長】 ありがとうございます。

【鴨下委員】 すいません、今のお話の続きですけれども、鳥取の知事でした片山さんが図書館のあり方というものを書いているのですが、やはり図書館というのは、ただ本を貸出す機能だけではなくて、市民の自立を助けたり、子供たちが遊びに来て楽しいと思いつながりながら本を読む空間や、お年寄りが関わってくる空間、企業の人に関わってくる空間など、市の活動を図書館を中心にして作っていくというような。最近新しい本を出されたそうですけれども、まだ手に入っていないのですが。そのような考えで新聞の記事に書いています。やはりここもそのようにして作ると、それなりの効果を発揮していく。だから、無駄遣いがないという話なのですが、そのように捉えていらっしゃるのです。ですから、私もそういう捉え方が非常に答申を出す上で大切なのではないかと考えております。

【藤森委員】 先日テレビを見てびっくりしたことがありまして、図書館の役割ということで、本を借りるだけではないという今の鴨下さんのお話ありましたが、それに関連して、今、小さい子供で、とても貧困な子供が多いという話がありまして、家に帰っ

でもお母さんが働いていて、ご飯もあまり食べられないし、自分で勉強する場所もない。そういう子供たちを受け入れる施設として図書館は非常に役に立っている。悪い道に走らないためにも、そういうところがとても必要。

それから、学校に通っている中学生、高校生ぐらいの子供たちも、図書館がなかったらゲームセンターとかカラオケに行っていたかもしれないけれど、図書館で宿題をやったり、お互いに分からないところを教え合ったりする。そういう本を借りるだけじゃない図書館の役割というものがとても大切なのだなということをこの間テレビで見まして、そういうことも図書館の大きな役割の1つになってくるのだなと思いますし、法律的にそういうことが許されるのかどうかということは少し私には分からないのですが、そういうことも1つ勉強になりました。少しそれをお話ししたくて申し上げました。

**【田中会長】** 図書館のあり方、様々あると思うのですが、昔みたいに音を立てたら回りから「しーっ」とか、そういうスペースだけではなくて、今はしゃべったり議論をしたりするようなスペースと、また静かに本を広げて調べ物をしたり、本を読んだりするスペース、そのように機能を分けてやっている図書館もあると思います。大学もそのようにやっている。

ですから、そういう意味では、このままのスペースではとてもとてもそんな余裕もないので、確かにどこに小金井市がお金を費やすのかという、まさに教育とか知的なものに対してお金をつぎ込んでいくというか、試されるわけではないでしょうけど、そういう視点も持ってこの答申を出していければいいかと思います。皆様のご意見、お知恵をここに反映できますものですから、皆さんの考えというのは、市民の皆様の考えとそう違わないと思われまして、そういう意見が、総意が反映できるような答申を書ければいいかと思います。ぜひご協力願いたいと思います。

答申については、本日はこのぐらいでよろしいでしょうか。

では、続きまして、アンケートについてご説明をいただいて、ご意見をいただきたいと思っております。

**【菊池館長】** 前回のもう1つの宿題にアンケートがございました。事前にメールでお送りしてございます。アンケートを実施するかどうかということも含めてということで、まだ実施するということは決まっていなかったかと思うのですが、宿題をいただきました。

事務局としましては、利用者の方々にどのようなご意見をお持ちなのかお聞きするのは大切だと思っておりますので、来館者向けのアンケートということで実施する方向で今回、案を

まとめました。

Webアンケートという話も前回いただいたかと思います。ネットでアンケートをするのもどうかというご意見をいただきました。こちら検討はしてみました。実際にWebでアンケートをしているところもございましたが、1つは、小金井と関係ない方も簡単にアンケートに参加できてしまうということと、ひとりで何回でも簡単に回答できてしまうということもありましたので、今回は来館者の方を対象とした紙ベースで収集したほうが参考になりやすい意見をいただけるのではないかということになりました。

お出ししたものはA4の両面です。来館者アンケートなので内容としてはA4の両面が限度かということで内容をかなり絞ってあります。アンケートについては、もともと図書館計画があった際もアンケートが必要ではないかということで、内々では様々な質問等を考えてきたところではありますが、今回、実際来館者ということになったので、ここまで絞り込んだ案を作りました。

小金井市立図書館についてのアンケートということで、質問が小さいお子さんには難しいので、中学生以上の方としております。全部で裏面まで、自由欄も含めて10項目ということです。

問1から問3までは、よく見かけるアンケートの項目に入っているお住まいや年齢、性別などが書いてあります。問4から小金井市の図書館はどれくらいの頻度で利用されますかということをお示ししています。

そして問5は、最も利用されている図書館はどちらかということで、ここは1つの選択のみとさせていただいて、市外の図書館を使っているのであればそこをお書きいただくようにしました。

問6では、一番使っている図書館を利用している理由は何ですかということで、2つお選びいただくかたちで、「その他」も入れて13項目作ってあります。例えば、学校や家から近いから使っているだとか、利用したい時間帯に開いているから利用しているだとか、こちらで考えています。こういう理由で使っているのではないかということを思いつく限りのものを書いています。

裏に行きまして、ここから最後まで、使っている図書館というよりは、小金井市の図書館全体についてお答えくださいということで書いていただきます。

問7は、今後、充実してほしい資料は何かということで、2つ選んでいただくよう尋ねています。



そして問8は、今後、充実してほしいサービスは何かと聞いています。開館日を増やしてほしい、高齢者サービスをもっと頑張してほしいなどという項目を入れております。

そして問9には、図書館に欲しい機能や設備は何かということで、2つ選択するように入れております。ここの問9ですけれども、実際に今ある集会室などは入っていません。利用者の方にお聞きしても、多分、項目として挙がってきづらいのかというところもありますので、そういったものは外してあります。実際、図書館施設を作っていく中でも、必要になってくるものは自然と入ってきますので、そういった意味では利用者が望むものだけ入れてあります。

問10が自由記入欄で、ご自由にお書きくださいということで、結構ぎりぎりまで入れたものになります。

続けて話してしまいますが、アンケートの実施について3月にできればと思っています。2月は図書館の休館日が入ってしまい少々難しいので、3月に実施ということで、各図書館に設置し、持って行ってもらえればいいのですが、なかなか出が悪ければ、窓口で手渡しにて配布し収集する。周知は市報と市ホームページ、図書館ホームページと考えています。アンケート結果はホームページと館内掲示で市民の方に公表するとともに、もちろん協議会でもお出しすると。

先ほど鴨下委員からもあったように、アンケートの内容についてはなかなか難しいところがあります。何を知りたいかというところもありますし、ぼやけたものを出すとぼやけた結果しか出てこないということもあるのですが、このアンケートで図書館を建てるというようには直結しない。あり方を作る中でのアンケートなので、まず手始めはこのような感じかと思っています。以上です。

【藤森委員】 問7のところですけど、充実してほしい資料である小説や普通の単行本はどこに含まれるのですか。①ですか。

【菊池館長】 そうですね。

【藤森委員】 新刊でないのだめなのですか。

【菊池館長】 そういうことはないです。

【藤森委員】 いわゆる普通の単行本ですか。

【菊池館長】 普通の本。

【吉田委員】 一般書籍ですかね。

【藤森委員】 ああ、一般書籍。

【船崎委員】 何かあったほうが良いと思いますね。

【吉田委員】 新刊本は新刊本でとってもいいかなと思います。

【菊池館長】 なるほど。一般書籍。では、そういうご意見いただきました。

【吉田委員】 絞ることも必要ですが、選択肢が1つのものはわかるのですが、2つというのは、どうしてなのでしょう。例えば、今のお話の間7、2つということはないかと思うのです。ですから、さらに広がってしまうなら、もう少し数を多くしてもいいかと思います。

それで、問8は逆に5つ、これは図書館が基本的にやっていることですので、特に充実してほしいサービスみたいな形にして、もう少し絞り込むというのはありかもしれない。この選択肢の数が、どうなのかと思いました。

【船崎委員】 2つ選択というと、何か2つ選ばなきゃみたいな、2つまでとか、4つまでとかいう形に表現はしたほうがよろしいかと。2つというのは少ないような気がします。

それから、これはもう方針として決まっていることですが、とりあえず来館者の調査ということで、ぜひとも、いずれやっていただきたいのは、問題はないのではないかとということだと思います。そうすると、ちょうど6番の問題がありますけれど、ここが、図書館を利用していない人について、利用していないのはどんな理由からですかという形で、ちょうど逆になるわけですけど、自宅から遠い、利用したい時間にかいていない、本やCDが貧弱、辞書や専門書が少ない等ということであると思うのですが。それも実は大切なので。来ている人はある程度満足して来ていらっしゃるし、それ以上望むことはあるのでしょうか、やはりいつかは来館者以外も含んで無差別でアンケートをやるのかどうか別として、利用していない人も当たるようなものをぜひやっていただきたいと思います。これは先の話です。

【石田委員】 今の意見、とてもいいと思うのですが、これを見た際に、ごく普通というか一般的過ぎるという気がしました。どこがどうではないのですが、もう少し何か欲しいという。その何かは、私自身は分からないのですが。Q7の藤森さんの意見を聞いて、本の種類について触れましたが、どこかで「あなたがよく読んでいる本は何ですか」と、本の題名を2つぐらいいただくことによって、読者の傾向、例えば文庫本を読んでいるとか、様々なものを読んでいるとか、本の題名による傾向がはかれるのではないかなという気がしたのですが。ただ、その題名は雑多になって、とても大変だという気もしまし

た。ただ、一般書籍ということで、それこそ作者によって読んでいる利用者もいると思うのですが、何か本の傾向があることによって、また違うことになってくるのではないかと。

それで、これが図書館に来た人じゃなくて、それこそ住民票などを取りに市役所を訪れる人たちに、ぜひお書きくださいというふうにしても、ごく普通の、一般の人の意見が取れるのではないかと思います。

**【坂野委員】** 私は個人的にはこういうアンケートをかなり答えているほうなのですが、このアンケートを見せられたときには、まず答えないと思います。選択肢が多過ぎて、読むのに時間がかかるし、話が出ましたけど、一般的過ぎておもしろくないアンケートだなと思いますので、改善点を幾つか、私見ですが申し上げます。

一つは、図書館運営の参考としますという漠たるものでは、やはり答えにくいということがありますので、ここを少しはっきりしたいですし、小金井市に住んでいますと新しい図書館を作るという話はどこかで耳にしているはずですから、やはりそれに関係づけて、回答を書く人の意欲をかき立てるような冒頭文にしてほしいというのが1点目です。

2点目は、聞きたい質問を先に聞いてほしいということです。Q1からQ5のうち一番重要なのはQ3なのですけれど、普通のアンケートは先に重要な質問が来て、他は最後のところに回して支障がなければお答えくださいという形式です。

この点では、実は図書館のアンケート、既に去年、28年4月にやっているらしくて、市民アンケートで見る動向の中に、図書館等というのがあります。これの回答が426人出ていますけれども、こういうものがあるわけですから、それを発展させる形で重要な問題を絞り込んでいくことができるかと思います。他にもあるのですが、時間がないので申し上げますが、あと、送料廃止について図書館はどうするのか、民間との連携は考えているのかという回答が出ています。ただし、426人ですけれども。ここで申し上げたいのは、アンケートをとって信頼度を高めるためには、小金井市の人口11万人だと、1,500人は絶対必要です。500人だと、結局声の大きい人、もっと別の言い方をすれば、これを書ける暇な人の声しか集まらなくて、平均的な声が出てくるとは思えません。ですから、何としても1,500人以上とれるようにしてほしいということです。

そういう例があるかといいますと、小金井ホームページを見ましたらありました。平成26年度に郵送で3,200通送って、2,004通返ってきた例がありますので、そのアンケートはどういった形式なのか私は知りませんが、それをまねる形で、2,000もいかなくて結構ですけど、1,500はとれるような形でアンケートをぜひとっていただ

きたいということです。

それから、このアンケート案は非常に長いですから、もしこれでやるのであれば、2つのことを提案します。1つは、1つでも2つでもいいのですが、優先順位で挙げてもらう。それは幾つ挙げてくれても結構です。1つでも構いませんし、10個でも構わないですけど、やはり一番知りたいのは優先順位だと思うのです。そのときに、小金井市には予算がなく限られている、財政的に厳しい、ということを説明文の中でうたっていたかないと、選択肢に書いてしまうと、何でもできるのだと回答者が勘違いしてしまうのではないのでしょうか。インターネットもでき、DVDも視聴できると思われて、これらを一番順位に持ってこれたら困るなどと思います。予算が厳しい中で、欲しいサービスは何ですか、欲しい設備は何ですかという聞き方にしてほしいと思います。

それから聞き方、もしこれだけの質問を出すのであれば、何回かに分けていただくか、場所を変えて、本館はこれ、分室はこれというように、とにかくたくさんの方が答えやすいようにしていただくのが適当だと思います。先ほどお話が出ましたように、住民票をとる間に待っている場でもいいかと思えますけれども、15分ぐらいの間にこれを全て読んで答えるのはほぼ無理だと思います。15分の間にはせいぜい二、三問だと思いますので少数に絞って、様々な場所で集めるほうがいいかと思えます。駅前で1問だけに絞って、Q6に絞って、図書館は利用していますか、利用していませんか、利用していない理由は何ですかと、これだけに絞って駅前で集めるのもいいかもしれません。

前にも数字を挙げましたけれども、今、図書館を一番利用していない年代というのは、18歳から29歳ですが、新図書館ができるときには彼らが中心となり税金を払うわけですから、この層の意見が集まらないといけません。小金井で税金を払って一番影響を受ける年代なのです。彼らのニーズが入っていないと、結局どの時点かでひっくり返ってしまう、反対を浴びるということになるかと思えますので、このQ6を中心に、ぜひ1,500人以上の回答が集まるように、アンケートを分ける形で対応していただければと思います。

**【吉田委員】** 今、坂野さんがおっしゃったように、アンケートは一般的に、1つのアンケートをたくさんの人にやってもらうという発想です。これは、いわば1つのところから全般的にやるという昔のイメージです。今はネットワークの時代なので、どちらかというと、少ないアンケートを多種類作って、それを照合していくやり方があるのではないかと思います。ネットワーク上のアンケートだと、例えばWebでもやり方によってはでき

るのです。ですから、そういう複数のアンケートを多様に作ってみるとというのが一つの手かなと、私は思います。

【田中会長】 一番問題になるのは、やはり図書館に来ていない人たちは何で来ていないのかということです。来ている人は、それなりにニーズがあって来ている。来られない人はそれなりの来られない理由があり、あるいは来たくない理由があるとすれば、この質問紙があっても図書館にだけあってもあまり意味がないわけですから、石田さんがおっしゃったように、どこか違う窓口で行うという案も含めて検討する必要があるかと思いました。

私が思ったのは、何かのイベントと一緒にアンケートを市民向けに設置するといいいのではないかと思ったのですが、その方法についてはまだわからないので、確かに窓口等にあつたらいいのかと思ったのは一つあります。

それともう一つ、この質問の中身について言えば、やはり新しい図書館に向かってアンケートをするということで、確かにこれだと既存のことについて「どれを重点的にやっていきますか」という印象になっているので「新しい図書館を目指すとするならば、どんな機能があったほうがいいのかと考えますか」のようなほうが確かにいいかもしれないので、もう少し中身を精査する必要があるかと思いました。

あと、幾つかの質問紙を作る。先ほど言ったように、年代別で聞いてみるということと、一番いいのは学校を介して一斉にやってもらうということがあると思います。そうしますと、数の集まりとしてはある程度いくのではないかと。教育委員会の下にあるわけですから、いいかもしれないです。

【菊池館長】 今回出させていただいて、協議が始まるまではなるべく早いうちにアンケートをしようという思いがあったのですが、そうしますと、もう一度練り直して案をお出しする形にしたほうがよろしいですか。今ここですぐ決定するのはなかなか難しいところがあるのかなと。

【田中会長】 もう一つは、今いただいた意見を、次回ある程度練り直して、例えば、私と図書館側とで作って、それをもう一回皆さんに見てもらってお出しするというかたちにするか。時期の問題があると思うのですけれども、3月というのは来館者がいっぱいいらっしゃるということで、そこはそれでいいかと思うのですが、また他のところで何かするということであると、もう少し時間も必要かという気もしますし、先ほどの答申のゴールを考えると、駆け足でアンケートをとって結果を出す必要もないのではないかという気

もしないでもない。いかがですか、図書館は。

【菊池館長】 　少し気持ち的に、ここは何か急いだ部分があつて、申しわけなかったなと思いますので、もう少しそこは、今いただいたご意見をもとにつくっていければなと思います。どういたしましょうか。

【鴨下委員】 　先ほど、利用していない人の意見が大事だということがありましたよね。そうすると、このアンケートをどのようにして配布するのかというのは、対象を広げるかどうかということになると思います。私はその郵送されてきた市民アンケートも答えたのですが、そういう方法はお金がかかるので、できるのでしょうか。また、アンケートは集計するのがすごく大変だと思うのですが、そういう人員は図書館で確保できるかどうかなど、問題は様々あると思います。

ただ、やはりこれを見ると、何のためにアンケートをとるかということが明確じゃない。もう少し、例えばこういうフリーのスペースが欲しいとか、勉強する部屋が欲しいとか、イベントも一つにまとめているので、図書館でやっているイベントは沢山あると思います。「子供の読み聞かせ室がとてもよかった」など具体的なものが出てくるようだと活用しやすいのではないかと思います。

Q6のところ、本やCDが充実しているというのは、私は、本は充実していると思うのですがCDはどうかわからないので、何のためにとるかというのを、もう少し項目をはっきりさせることと、対象をどこまで広げるかということ、その集約をどのようにするかということを考えて上で、もう少し練り直したらどうかと思います。

【菊池館長】 　今回、来館者を考えましたので、内容的にA4の裏表でおさまる範囲というのが、まず頭にありました。その中でおさまる範囲の質問事項に絞ろうというのが一つと、やはり集計の問題がありましたので、何パターンか作ってしまうと集計が難しくなるのではないかとということがありまして、中学生以上ということで一本化にしたということとはあります。

【田中会長】 　確かにアンケートをするのは簡単かもしれない。一斉に撒いて一斉に集めて。その後は、はっきり言うと大変で、それをどう分析してどう出すかということになると、質問紙が多ければ多いほど大変でだと思います。人もいないときに1,500人の統計をとったらパンクするのではないかとということもあるのですけれども、少しやり方を変えれば、先ほど言ったように、ある学校の、あるいは高校でもいいですが、問い合わせで100人なら100人とかいうやり方をしていくという手もあるかと思われるので、少し

やり方と質問紙の質問の量をもう一回検討させてください。

【内田委員】 先ほど会長がおっしゃった学校でアンケートをするというのは、生徒が対象ですよね。そこを保護者に書いていただいたら、より多くの年齢層にお願いすることができるのではないのでしょうか。お勤めなさっている方もいらっしゃるから、利用されていない方も当然多くいらっしゃると思うので、どうしたら利用できますかみたいなご意見をいただけるのではないかなと思いました。

【吉田委員】 学校を活用されるのは大変いいことなのですが、やはり学校に負担がかかってしまうので、その負担を最低限にするためには、学校で集計をとるというのは絶対できませんので却下したいです。また、全員の分を集めなければいけないという悉皆調査も非常に大変です。ですから、配ってもどのぐらいの反応が来るかわからないけれども、とにかく来ただけ集めて、そのまま郵送するという形でないとなかなか難しいと思います。

それから、やるとしたら、ちょうど3～4月というのは、それぞれ比較的、卒業、入学の時期なので、色々忙しい時期でもあるのです。まあ、やれることはやれるのですが。それで、質問紙を少なくするということが、それから内容を精選し、今、お言葉ありましたけれども、例えば15項目あって、それを順番で並びかえるなどというのは、とてもできないことですので、そういうことではなく、上位3つ程度を選ぶとか、せいぜいそのぐらいの問題で、しかも片面1枚ぐらいでやっていただかないと無理でしょう。保護者についても同じです。アンケートは子供以上に保護者からは返ってきません。学校評価アンケートでもなかなか難しいのです。ですから、そういうことも含めて、アンケートを配布するのはいいですが、回収についてはあまり責任を持ってできないと思われれます。

【田中会長】 学校の話はあくまで仮定で、教育委員会もあるし、様々なことがあるので、どこか対象があって、できたらいいなとは思いますが。

【吉田委員】 学校についてだったら、例えば学校と図書館の連携というのがあるわけですから、これから作る新しい図書館をどのようにするかという話だと比較的乗りやすい。それで、学校との連携をどう考えるかも含めて、ターゲットを絞って、それなりの質問紙にすればいいのではないかなとは思いますが。

【藤森委員】 今回の吉田委員のご意見で、新しい図書館を作るという言葉がこの段階に入れていいのかどうかということは、非常に重要な問題になります。Q7や8に、「今後、充実してほしい」となっていますが、今ある施設を改善するとするか、新しい図書館を建てるに当たって望むこととるか。ここがはっきりしないと、このアンケートを出された

ほうも答えに迷うと思うのですが。

「建てるとしたら、どういうことを望みますか」というならいいけど、今後充実してほしいというと、現在ある図書館に対しての不満というふうに捉えかねないという気がします。

【坂野委員】 図書館長、今回のアンケートを実施する上で、アンケート用の予算というのはとられているのですか。

【菊池館長】 アンケート用の予算は事情がありまして、とれていないです。

【坂野委員】 ゼロってことですか。

【菊池館長】 そうですね。なので、最初の段階では郵送も考えたのですが、なかなかそこも難しいという事情もありまして、この形になりました。

【坂野委員】 1年前の公共施設のアンケートは郵送ですので最低50万円ぐらいとっていました。

【菊池館長】 紙代はともかく、郵送料が必要になってきますね。

【船崎委員】 参考までによろしいですか。もう20年ぐらい前ですが、新しい図書館を作ると決まっていたときだったものですから、沢山の人に聞かないとということで、当時の武蔵野市は人口13万で、1,300人に郵送しました。これに対して有効回収数というのが1,051あったのですが、これは訪問回収という方法で、業者に頼んで全部戸別に訪問したのです。そうやって80%の回答が集まりました。それで、例によって「武蔵野図書館を利用したことがありますか、知っていますか」と聞くと、当時は半分以上が知らないです。今はかなり上がっていると思いますけど。遠くて行けないとか、色々聞いているのですが、これは建てると決まっていたときで1,000集まったから、結構参考にはなったのです。色々な質問を沢山やりましたが、とれたのはこれだけ。拒否された事例もありました。不在が一番多いのですが。だから、訪問回収にすることは有効です。業務委託になってしまいますが。

【石田委員】 たしかに大変ですね。朝行ったり、夜行ったり。

【菊池館長】 今回、設置場所は図書館とっていたので、先ほどあった図書館を利用してない理由は、来ている人に聞くので、利用してない理由というのは必然的に聞かない形です。置くところも、図書館と考えたのですが、最初は市内のあちこちに施設がありますので、そこに置いて書いてもらおうかという話も出ましたが、置く場所と置かない場所で不公平さが出てしまうこともあるので、結果的に図書館だけにしようかといった事情も



あります。置くなら全部の施設という話になりました。

【田中会長】 体育館や公民館などの公共施設を使って置いたらいいのでは。

【菊池館長】 そのあたりも含めて、もう少し検討したほうがいいかと。

【坂野委員】 事務局でやられるのは限界があるかと思しますので、このアンケートの案を作ってそちらにお送りするという方法はとれませんか。これであれば私も答えるというアンケートの作り方の提案を出すのは全然やぶさかでないです。

【菊池館長】 私どもに直接いただくのが難しい感じがあるのかと思しますので、もしあれば会長に。

【田中会長】 そうですね。出していただいて、検討して。やはりある程度、様々な人の目を見ていただいたほうがよろしいかと思します。現在あるアンケートも図書館側で考えて提示していただきましたが、やはりそれぞれの見方があり、坂野委員からこういうものを出していただいて、それをミックスしたような形にするのもよいかと。そういうこともあるので、提案していただくのは全然問題はない。それをまた一緒に見直すことができればと思します。

図書館としては、タイムスケジュール的には3月ぐらいに出したいと。これを長くするのかどうか、色々あると思しますが。

【菊池館長】 私の勝手な頭の中では早いほうがいいのではと思ったのですが、先ほどのご意見を伺うと、そこまで急がなくてもいいのではないかということがありましたので、もう少しきちんと作り直したほうがよいと思します。

【田中会長】 では、石田さんも何かご意見ありましたら。

【石田委員】 いえいえ。意見を聞いて、メールで私たちに送っていただいて、それを見せていただいて、それぞれの意見をまとめるのは、これだけの委員の中の意見だけでもすごく大変だと思します。次に私たちがいつごろ集まるのか気になった。そうしたら、それまでに案を出して、ある程度まとめたものを第1案、第2案、第3案などを出していただければ、それについて、ここはいい、ここは違うという取捨選択をさせていただく時間が皆さんにあればという気がしたのですが、次の協議会の日程は。

【田中会長】 一応、3月ぐらいに。

【石田委員】 ですよね。

【田中会長】 図書館長、それ以降でよろしいですか。それよりも早いほうがよろしいですか。

【菊池館長】 いや、そこでいいですね。それほど急がないものであれば。

【田中会長】 あるいは、一度、例えば2月中旬ぐらいまでに案がある人は出していただいて、それをまとめたものを協議して一度発信し、3月に集まった際にはもうほとんど完成している形にする。3月に集まる際に、またこの議題で集めるのはもったいない。

【石田委員】 そうですね。もったいないですね。

【田中会長】 時間が少し長過ぎる。では、そういう格好で、アンケートの中身などについてご意見があったら出していただいて。それをまとめて、一度、図書館側と私でまとめて、次の前には皆さんに十分考えていただくという格好にしたいと思います。

【西村庶務係長】 今のアンケートを出していただくというのは、こういうアンケート案を皆さんから出していただくイメージですか、それともこれを基本とした、これに対する意見というか。それによっては、案を一斉に出されると、まとめるのがすごく大変に。きちんとしたものを皆さんからのご意見として出してもらったほうが多分まとまる。

【田中会長】 でも、先ほどから見ていると、中身について、やはりもう少し考えたほうがいいのではないかということがあったので、一応、これはベースにはなるとは思いますが、設問の仕方や選択肢のあり方という部分について、皆さん少しご意見があるみたいなので、そこを1回、吸い上げてからやりたいと。

【中里委員】 本日、出た意見を反映させたものを事務局で整理して、短くするとか設問の仕方を変えるとか、それらを投げてということですよ。

【田中会長】 やり方は少し相談させてください。

【吉田委員】 アンケートは原則、この答申については一回だけですか。

【菊池館長】 そうですね。

【吉田委員】 一回ですね。そうすると、やはり対象別にするとかいうことが出てきます。人数が多くなればなるほど集計が大変なので、答えるほうも集計するほうもあまり複雑でないものがないと思います。

こういうアンケートをとったときに、普通はその調査の一般的傾向を考えます。こういう人たちがこういう答えをしてくるとか、また、エクセルでクロス集計をしてほしいです。そのクロス集計をやるのか、それとも単純集計にするのかも含めて作っていく必要があります。アンケートの精度をどのようにするか。人数が多くなってくると、やはり対象別などになってこざるを得なくなるとは思います。また、なるべくシンプルで集計が易しい形にしないと。学校評価アンケートでも大変なものなので。

【田中会長】 今、アンケートのことで、これをどこまでこれに反映させるかと、労力をそこまで使ってすべきかどうかと考えてしまう。

【菊池館長】 アンケートを実施するかどうか未確定なところがあります。今のところ、する方向でということで先ほどご意見をいただいたので、考えてみます。

【田中会長】 する方向でということでやりますけど、先ほど言ったように、あまりにアンケートに頼り過ぎてしまうと、今度はそのアンケートの答えだけが独り歩きをし始めてしまい、何のためにこれを行っているのかというか、これに労力を使い過ぎてしまい、答申のあり方との力加減を少し相談しながらやりたいと思います。

【内田委員】 保護者にとということなのですが、今、P連は、かなり図書館の動きについては皆さん関心が高いので、アンケートなどを一斉にお願いすれば、各小中学校には学校の先生の手を煩わせずに、保護者で配布して回収という形は現実的にとれるかと思えます。昨年度も、教育委員会からだったか、応募か何かの一斉のお知らせなども同じようなやり方でやったこともありますので、それは現実的に考えていただいても大丈夫かなと思います。

【田中会長】 ありがとうございます。

【坂野委員】 内容に立ち入りますが、意見として申し上げますと、学校教育や児童の対応はよくわかるのですが、例の資料、「小金井市公共施設等総合管理計画」の中に人口見通しというのが出ています。簡潔に言いますと、この計画では30年先において、年少人口である14歳以下が26%減る一方で、老年人口である65歳以上は47%増加する。人数でいいますと1万2,000人増加しますと。1万2,000人のうち、仮に1割が図書館に行きたいと思うと1,200人、その人が2日に1回来たいと思ったら600人になる。つまり600人の人が今までより図書館利用者として増えるわけです。先ほど言いましたように、私は去年1年間で150回、1日に3館はしごしたこともありますけど、高齢者がいらっしゃるのは圧倒的に雑誌・図書コーナーでして、机は使っていません。ソファです。これがないと将来的に役に立たない図書館になるのではないかということです。

ですから、今から10年後に新図書館ができ上がった際に、65歳以上の高齢者、こう言っても何ですが暇な方々は雑誌・図書を読みに来る方が多いということを想定して図書館を計画しなければいけないかと思っています。もともと学校教育ではありませんで、社会教育、生涯教育ですから、普通の学校の勉強をするのではなくて様々な情報を知りたいという方のための施設とすることが必要だと思います。

そう考えると、雑誌・図書は増やす必要があります。今、小金井市の統計がありますので見てみたら、272種類の雑誌しかないです。冊数でいいますと400冊ぐらいです。600人増える分は1冊も読めないという状況になります。これが小金井市ではなくて武蔵野市は800種類あって、三鷹市は500種類だったかと。今度できる多摩の図書館は6,000種類ですから、小金井市は圧倒的に少ない。これも増やしていかなければならない。

それから、高齢者ですから座るところはぜひほしいのですけれども、今あるかという、貫井北が一番広いのですけれども、それでも少ない。ですから、机を廃止してでもソファを増やしていただきたい。そういうことが次々出てくるかと思います。

もう一つ言えば、高齢者ですから、中央図書館を蛇の目跡地に作ったら、これは交通機関がないということになります。貫井北町1丁目、南町1丁目、関野町1丁目の高齢者の方は使えないと思います。これも念頭に置いておかないと、でき上がる際の人口構成、人の見積もり、市民の本当に欲しいものという形が見えてこないかと思います。

アンケートをとる際に、先ほど私は3番の年齢が一番重要だと言いましたけれども、年齢の高い層の答えも集めたいと思います。その際に将来の老年者ですから、今、50代後半の方ということなので、これは非常に難しいのですが、それ行わないとアンケートの意味がないのではないかと、この人口見通しを見ましても思っております。これは、またアンケートの配布場所を考える上で具体的に提示できればと思います。私も二十数年間勤めている際は毎日小金井駅を利用しましたけれど、今は週に3回も行かないです。また、私はもう子供の親、保護者ではありませんので、そのルートでも引っかかってこないということですから、この点、配布場所に何か工夫が必要ではないかと思いますので、意見させていただきます。

【田中会長】      ご意見ありがとうございました。

【石田委員】      私たちが今すべきことは、図書館の何もないゼロの場合に、いかに声を上げて小金井市の新しい図書館を作る方向に持っていかなせるかということが大事だと思います。6施設の計画がなくなって、私が今の第一庁舎の跡地が空かないのかをある人に聞いたら、そこは売って複合庁舎の資金にするのではないかと言うから、第一庁舎あたりに図書館とフリースペースができたらと。

実は11月に社会教育委員の会議の5ブロックの団体の担当市が武蔵野市だったので、武蔵野プレイスを全部見てきました。意見なども交換したのですが、現実的に言えば、2

0年後、30年後を見据えた際には、図書館を建てるための評議員の公募は必ずあると思います。それを建てるための意見を言える場所がパブコメもできるでしょうし、図書館を作らせる第一歩を作るためのアンケートや答申を行うことが必要。

社会福祉協議会も、何もないところに社会福祉協議会を建て直すために、このお金を使ってくださいと言って資産を寄付した人がいました。そうすると、そこにそれだけの基金ができるわけです。山本教育長に一度話したところ、「じゃあ石田さん、図書館を作るための基金を寄付してください。そうすると図書館に基金ができるので、基金があるということが皆さんに浸透することで、図書館を作らなければいけないと動きますよ」と言われました。ですが、私たちが今すべきことは、そちらに皆さんの目を向けさせて、小金井の図書館をいかに新しくきれいに、使いやすい良いものを建てなければいけないのだという意識を促さなければいけないと思うのです。ですから、坂野さんの意見はそのもう一つ先であって、目標の先にそれは置かなければいけないのですが、今、私たちの段階としては、やはり新しい図書館が欲しいというところの原点で、できれば答申等もまとめていってほしいと思います。

【吉田委員】 アンケートは基本的に狙う方向で作るということがよくあります。だから、実はプロパガンダやアジェーションの一種なのです。何々をやりますというアジェーションは、そちらの方向に持っていくというバロメーターになるわけですので、現状や本当の課題はまた後で出てくるだろうと思うのですが、やはりアンケートの対象をある程度、保護者や子供たちにも、これからの市民は彼らですから、話を聞かないといけないでしょう。

【田中会長】 では、アンケートについてはこういうことで、まとめ直して、図書館に目を通していただきたいなと思っています。

次に行きたいと思います。その他、多摩地域公立図書館大会についてということで、お願いします。

【西村庶務係長】 チラシのコピーを配らせていただきました。「魅力ある図書館をめざして」ということで、図書館大会が2月1日と2日の日程でございます。ご興味のある方は、当日直接、会場ということでご案内させていただきます

【田中会長】 これは、行きたい人が手を挙げるということですか。

【菊池館長】 毎年、この時期に図書館大会が多摩地域でありまして、「申込」とあるのですが、当日に直接会場に行っていたら、先着順と書いてありますが大体入れます

ので大丈夫です。興味のある方はぜひ。

【田中会長】 では、参加したい、参加できる方は図書館にご連絡。それとも。

【菊池館長】 直接で大丈夫です。申し込まずに直接行っていただいて構わない。

【田中会長】 「地域の活力を生み出す図書館について考える」、「地域の情報基盤としての公共図書館」、「障害者差別解消法と図書館のサービス」。

【菊池館長】 大きな大会と小さな大会と交互にやっていて、今年は小大会ですね。私は議会中なので出席できない。

【田中会長】 わかりました。それでは、その他の2番の視察について。

【西村庶務係長】 視察について、ここ数年実施できておらず、先ほど鴨下委員からも国分寺の都立図書館の見学はどうかというお話がありました。マイクロバスを使つての視察の予定でしたが、昨年度から契約が変わりまして、予算要求の段階に視察でどこへ行くか決まった状態で各課が手を挙げないと、マイクロバスを使つての視察が難しいということになりました。25キロ圏内、日当がかからない範囲で電車移動になってしまうのですが、交通費は片道900円までは出ます。その範囲であれば視察は行けるということで、来年度ご提案いただいて、皆さんにお願いしたいと。しっかりと決めて要求しておけばよかったのですが、すみません。そんなことで、29年度実施となりましたのでご報告させていただきます。

【石田委員】 社会教育委員の会議も、コミュニティスクールの視察は小平集合でした。みんな電車で小平に集合で、駅前で集まって小平六中に行きましたから、やはりマイクロバスは使わないで。意外と簡単。そのほうが楽な方もいらっしゃる。

【坂野委員】 視察というのは具体的に何をやるか教えていただけませんか。私の要望ですと、物を見るのではなくて、質問をしたいわけです。予算のこと、あるいは利用者の声はどのようなものが上がっているか等を問う時間をとっていただけると。むしろそちらが多いほうがいいのですが、そこの館長の方あるいは館の担当の方に。それこそこういう協議の上で参考になると思うのですが、それをとっていただくことも含めて視察ということでもよろしいですか。

【菊池館長】 今までの様子からしますと、見学だと普通に見て帰ってくるだけになってしまいますが、視察だと聞きたいことがありますので、事前にご質問を先方にお送りしておいて、当日お答えいただく形のものが多いかと思います。ただ、質問をあまり大量ですと見学する時間がなくなってしまいますし、下調べが必要になると、あちらの負担もか

かってしまいますので。

【坂野委員】　そこはわかっている。そういうことも含めた上で視察を考えていらっしゃるということですね。

【菊池館長】　はい。

【坂野委員】　私は図書館関係者の書かれました本をこれまで40冊くらい読んでいるのですが、そうすると、こういうことを聞きたいという事項がだんだん絞られてきます。それらを本当の現場の方の声として調べられたら、役に立つと思っています。視察では、そういう質問の時間も、例えば2時間行くのであれば1時間ぐらいあると。

【菊池館長】　先方の事情にもよりますけれども、こちらで事前質問をさせていただいて、当日回答いただくよう依頼できれば。大概「大丈夫ですよ」と言ってくださるのですが、そういった方向で。

【坂野委員】　調整してやればできると。

【菊池館長】　はい。

【坂野委員】　わかりました。

【西村庶務係長】　視察の話については、石田さんから電車という話をいただきましたが、来年度視察について、今の坂野委員の提案や皆さんの提案で、どこかに行くということで。

【石田委員】　都立図書館が新しくなりましたよね。

【田中会長】　国分寺でしたっけ。

【石田委員】　はい、国分寺です。

【西村庶務係長】　会長、事前に3月の際に皆さんで案を考えていただいて。

【菊池館長】　ここで今、どこと決めるのもなかなか難しいかと思いますが、今、都立図書館というご意見もいただきましたし、他にもしどこかあれば。

【坂野委員】　私は、予算規模がそんなに贅沢なところに行っても意味がないので、我々小金井市の予算規模に似合ったところでうまく運営している図書館を探して、行きたいです。夢を追うのは構わないのですが、現実問題として6,000冊も雑誌があるようなところに行ってみてすごいなと思ってみても、その館長の話聞いてみても、参考にしようがないので。近隣がよいかと思いますけれども、似たような財政状況でうまく運営しているところ、それでかつ利用者が多い図書館にぜひ行ってみたい。

【西村庶務係長】　皆さんでどこか行きたいところで、おそらく一回の実施になるかと。

詳しくは次回に。

【田中会長】 では、次回までに、もしこういう候補地があるというのがあれば。

【吉田委員】 時期や場所はある程度原案を出していただきたい。時間、時期もありますよね。

【西村庶務係長】 時期は、そうですね。

【菊池館長】 繁忙期はやはり避けたい。

【吉田委員】 そうですね。わかりました。

【田中会長】 用意してある議題は以上ですが、その他で何か。

【菊池館長】 今、都立多摩図書館のお話が出ました。今月29日がオープンになります。先日、図書館長協議会で内覧会がありまして行ってきましたので、少し様子をお話しさせていただきます。

西国分寺から歩いて7分ぐらいで着きまして、全部で3階建てです。地下はなくて、はけといますか、水脈を確保するために掘らなかったということで、地上だけの建物になっているそうです。延床面積が約9,000平米で、今あるところの約2倍です。開架フロア10万冊に比べて総収蔵可能は285万冊なので、閉架が圧倒的に多いという作りになっていました。見た感じ、木をすごく意識されていて、多摩の木をふんだんに使っているところや、白を基調に館内を作っていますので、木か白かという、すごく清潔できれいなイメージの図書館でした。

まだ準備期間中でしたけれども、大分本が入ってしまっていて、今後は毎年何万冊か中央からも移動してくるので、予定どおりにいけば満杯になるのは18年後ということでした。開館時間が大分変わって、都立中央に合わせたとのことで、月金が10時から夜9時まで、土日、祝日は10時から5時半までという形だそうです。駐車場が20数台とのことなので、あまり多くない。ただ、駅から近いので自転車などで行けるかと思われそうです。

やはり雑誌をかなり見られるようになっていて、いちいち整頓しなくても、自分たちで手にとって見られるように開架に並んでいるところがかなり売りのようです。

【船崎委員】 古いほうの社会教育会館自体の建物はあるのですか。

【菊池館長】 複合施設なので、そのまま残っています。

【船崎委員】 では他のところかな。

【菊池館長】 あとは何に使うか、私はすみませんが知らなくて。見学はどうぞということでお話はいただきました。簡単ですが、以上になります。



【石田委員】 この図書館も購入するのではなくて、出版社の献本を受け付けているのですか。国会図書館と国際子ども図書館と同じように。

【菊池館長】 国会はそうです。

【船崎委員】 国会は法律で決められているから。

【石田委員】 こちらもそのようにするというようなことを聞きましたけど、それは言っていないでしたか。

【菊池館長】 そのお話はなかったです。

【坂野委員】 半額、払っているのですかね。

【船崎委員】 結局、払っているわけですね。

【石田委員】 1年間の新刊本はほとんど集約されると。

【石田委員】 今度、見学した際に。

【田中会長】 何かその他でございせんか。

【坂野委員】 気づいたことがあるのですが、「月刊公民館だより」の1月1日号には公民館運営審議会委員長の言葉が載っていて、審議会ではこういうことをやっているという宣伝があるのです。来年はこれを「図書館だより」でも載せませんか、図書館協議会会長の言葉を。読んでみて、あ、なるほど、こういうことをやっているのかと知る機会になりますので。

【菊池館長】 公民館だよりは毎月出していて、図書館だよりは今のところ、なかなか定期的に発行できていない状況です。ここのところ頑張って担当が作っていて、2カ月に1回程度発行しているので、今後発行の頻度が高くなってくれば、当然対応できますので、そういったこともお願いできるかと思っております。

【坂野委員】 もう一つ、本館にあるインターネット閲覧端末利用させてもらいました。ありがとうございました。読める本が数十倍に広がって、感謝しますということなのですが、利用できる時間が結構短いです。インターネットで国立国会図書館のデジタル化資料を見ていて、相当速く読んでも30分間や1時間では短い。今後の利用方法を考えていただきたいです。

設置場所は悪いですね。児童図書の入りの場所ですが、非常にうるさくて集中できない。ただ、閲覧端末自体は非常に助かります。

【西村庶務係長】 次回の日程は3月の議会最終日が9日なので、その翌週、13日の週あたりで、皆さんにご予定をお伺いして決めさせていただければと思います。またメ

ールで送らせていただきますので、よろしくお願ひします。

【田中会長】 よろしいでしょうか。では、本日はこれで閉会といたします。長い間、  
どうもありがとうございました。

— 了 —